

今日から介護保険制度スタート

総理、厚生大臣、区高齢者在宅サービスセンターを視察

本日 1 日午前、介護保険制度のスタートにあたり、小渕内閣総理大臣が丹羽厚生大臣とともに、豊島区立高齢者在宅サービスセンター「山吹の里」（豊島区高田 3-37-17）を視察に訪れた。

午前 9 時 45 分、同施設に到着した総理は、まず始めに厚生大臣とともに、認定調査員、ケアマネージャー、民間事業者を含むサービス従事者、利用者代表等、介護保険制度に関わる 16 名の出席者との懇談を行った。

懇談会の冒頭、総理は「新しい制度がスタートする本日を政治家として記念すべき日として迎えた。その日にあたり、まず現場にのぞみ、皆さんからの率直な声を伺いたい」と挨拶した。続いて挨拶に立った高野之夫豊島区長は、「豊島区においては、従来からの在宅サービス利用者が、引き続き切れることなくサービスを受けられるよう、万全の態勢で本日を迎えた。これも関係者の並々ならぬ苦勞と努力の結果と感謝しているが、率直に言って、もう少し早くケアプラン作成の環境が整っていればと考えている。今後は、制度の実施状況の把握に努め、制度の円滑な施行のため、万全を期していきたい」と保険者である自治体の決意を述べた。

次に、認定調査員とケアマネージャーからは、ケアプラン作成までの現状報告が、ヘルパー、訪問看護婦等サービス事業者からは、制度への取り組みと課題が述べられたのに対し、丹羽厚生大臣は「調査員、ケアプラン作成者、サービス事業者については切り離れた方がいいという意見もあるが、それぞれの職域で大変な努力をして取り組んでおられる皆さんの話を聞いて、職域をきちんと確立した上で横のつながりの必要性をあらためて感じた」と述べ、また「介護保険制度は地方分権とコミュニティの転換の起爆剤になるものである。誰もが避けて通れない問題として、国民ひとりひとりに関心を持ってもらいたい」と理解を訴えた。

利用者を代表して、自ら体の不自由さを抱えながら寝たきりの夫を介護する家族から、その苦勞と制度への期待に対する率直な意見が述べられたのに対し、総理は「ご苦勞しながらも一生懸命生き抜こうというその姿勢に感動した。国民に広く伝え、勇気づけたい」と述べ、「制度は開始したばかりで、課題もまだまだあるが、21 世紀にこの制度が十分活かされ、高齢者が安心して暮らせるよう、今後がんばって取り組んでいてもらいたい」と、関係者を激励した。

懇談の後、職員に案内されながら施設内を視察した総理と厚生大臣は、デイサービスの部屋で、テーブルごとに集まって話をしている利用者に声をかけてまわった。

職員が「利用者で最高齢の方です」と紹介すると、「こんにちは、おいくつですか」と握手を求め、「私と握手するともっと長生きするそうだよ」などと周囲を笑わせた。古切手を細かく切り分けてはり絵を描いているテーブルでは、「ずいぶん細かな作業だね。お年を召され方は、はさみを使うのが慣れているからね」と絵に見入っていた。首相と丹羽大臣は、出来上がった作品に「サインをするよ。記念にね」と二人で名前を書き、「それでは元気で。楽しくやってくださいね」と声をかけた。

本日、区の介護保険課には、区民を含め午後 3 時現在 7 件の問合せが寄せられたが、概ね順調に制度の開始を迎えた。なお、豊島区における認定実施状況等介護保険制度の現状は別紙資料のとおり。

詳細：介護保険課長